

令和7年度第2回瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体会議 議事録

開催日時	令和7年11月6日（木）午後2時から午後3時30分まで
参加者	委員：別紙委員名簿のとおり 事務局：高齢者福祉課長、課長補佐、地域支援係長、担当主事
場所	やすらぎ会館 大集会室
内容	1 開会 2 議事 （1）生活支援コーディネーター活動実績報告について 第1層生活支援コーディネーターより【資料1】説明 （2）政策提言について 事務局より【資料2】説明 委員長より【参考資料】説明 （1）（2）についての意見等 【意見】 （基幹型地域包括支援センター） ・保健推進員の活躍の場が地域の通いの場に広がると良い。様々な関係機関と協力しながら、通いの場についても検討できると良いと考える。 （瀬戸地域福祉を考える会まごころ） ・通いの場について、そもそも知られていないことが多い。水野連区の取り組みは良い。保健推進員や地域包括支援センターと通いの場運営者の交流、連携がないのではないかと。そこが問題である。今、まごころは口コミが多い。口コミは固定化されやすい。 ・近所の人が歩いていける場所で様々なことができることが重要である。 【参考・エピソード】 （瀬戸市自治連合会） ・水野連区では、地域の情報を提供する「まほろばカレンダー」を毎月発行。サロンも掲載して情報を出している。イベント情報の広報誌も出している。他にも、ボッチャやバス旅行等を企画し、年齢問わず参加できるイベントを開催している。カレンダーは全戸配布し、交流センターにも設置しているが、細かい情報は伝わりにくい。 ・市のホームページ等に掲載しても高齢者は見るできないため、手書きの広報誌が一番有効であると考えます。 （第2層生活支援コーディネーター） ・社会福祉協議会も「社協だより」を年に4回出している。今回、東山町の麻雀の会をよりどころに認定したことを掲載したところ、参加希望の問い合わせ

があり反響があった。最近の新規参加者数は6～7人と多く、広報誌から繋がるケースもあると実感した。その一方で、それを必要な人にどう届けるかが課題である。東山町の場合、民生委員に新規の通いの場ができたことを伝え、民生委員から住民へ周知してもらうなど、横の連携が大切だと感じた。

- ・生活支援コーディネーターで「資源マップ」を作成しているが、これが必要な方に届いているかも課題であり、地域の皆さんのご意見も聞けると良い。

(基幹型地域包括支援センター)

- ・毎月市内各地で「出張！せとらカフェ♪」を開催している。その際、地域のよりどころや居場所を把握するようにしている。フリートーク時に気になる人がいたら地域のよりどころや居場所を伝えようと認知症サポーターと意識付けをしている。

(委員長)

- ・様々な媒体で広報されているが、口コミが唯一の伝達手段であったり、外出しないため、広報の媒体に触れてこなかったりしている。知った方が来なくなる仕掛けが重要。次回の政策提言に繋がる話をしていきたい。

[協議結果]

- ・今回挙げられた意見を基に、次回の協議体にて政策提言をまとめることとなった。

(3) 地域サロン参加者アンケート調査について

第1層生活支援コーディネーターより【資料5】説明

【質疑応答】

(地区社協会長連絡会)

- ・設問3「サロンへの参加頻度」について、週1回行っているサロンの回答ができないのではないか。

- ・「このサロンに参加し、友人を誘ってみたいか」という設問はどうか。

(第1層生活支援コーディネーター)

- ・回答項目を検討する。

(基幹型地域包括支援センター)

- ・「参加したきっかけ」「紹介」「何を見てサロンに来たのか」等の設問があると良い。

(瀬戸地域福祉を考える会まごころ)

- ・地域にアンケートをした方が良い。サロンに参加したことない人になぜ参加しないのか等も聞いてみてはどうか。

(第1層生活支援コーディネーター)

- ・サロン参加者の満足度とともに成果を把握し、働きかけに繋げるという目的で作成した。また、設問6で「休む時の理由」を入れている。

	(委員長) ・全く参加しない人に聞くと一軒ずつ回らないといけない。サロン運営者の負担にならない範囲でアンケート調査を行う。 (瀬戸地域福祉を考える会まごころ) ・各地域のサロンに配布するのか。 (第1層生活支援コーディネーター) ・通いの場として認識されている場所をお願いをしていく。よりどころやサロンまごころ、地域力向上推進組織、地区社協等できるだけ多く取っていきたい。 (瀬戸市自治連合会) ・このアンケートは高齢者対象か。 (第1層生活支援コーディネーター) ・協議体が高齢者を対象とした施策を考える場になっているため、65歳から対象であるが、年齢区分は「64歳以下」を作った。 (基幹型地域包括支援センター) ・年齢区分は何か理由があるのか。せとらカフェは80歳以上の参加者も多い。 (第1層生活支援コーディネーター) ・区分については分かりやすいように前期高齢者・後期高齢者を2区分ずつにただけであるが、今の話を受けて80歳以上のくくりを2つに分けて90歳以上を追加することは可能。 [協議結果] ・後日、修正したアンケート調査票を委員へ共有することとした。 3 その他 (1) 事務局より「生き！生き！スマイルシニア」の説明 【質疑応答】 (第1層生活支援コーディネーター) ・ワンコイントレーニングについて、参加者数はあるか。 (事務局) ・下半期について、12ヶ所の参加者名簿が揃っていないため明確な数は不明だが、1教室あたり10人前後の参加申込がある。 (地区社協会長連絡会) ・定員オーバーで断ることはあるか。 (事務局) ・定員オーバーでお断りすることはないが、事業所からは報告をいただいている。 (2) 瀬戸市シルバー人材センターよりシルバー人材センターについて ・9月末までの会員数が482名。前年比では－9名。70代が66%、80代以上
--	--

令和 7 年度第 2 回瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体会議 議事録

	が約 20%働いている。今年は約 40 名が新規加入し、約 7 割が 70 歳以上。9 月末現在の就業者数は 464 名。昨年は約 50 名が退会したが、約半数以上が健康。年齢と共に体力低下し、退会する方もいる。引き続き募集を行うが、高齢者を紹介していただきたい。
	4 閉会